

平成27年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

問 1 グラフ 1.は、2010 年の「全国学力・学習状況調査」から得られた小学 6 年生の学力テストの結果を示している。また、グラフ 2.は、2010 年の「全国学力・学習状況調査」から得られた小学 6 年生の生活習慣に関する結果を示している。そして、グラフ 3.は、「県民経済計算年報」から得られた 2010 年の一人当たり県民所得を示している。3 つのグラフには、それぞれ全国平均と沖縄県のデータとともに、すべての科目で学力テストが 1 位であった秋田県のデータを記載した。

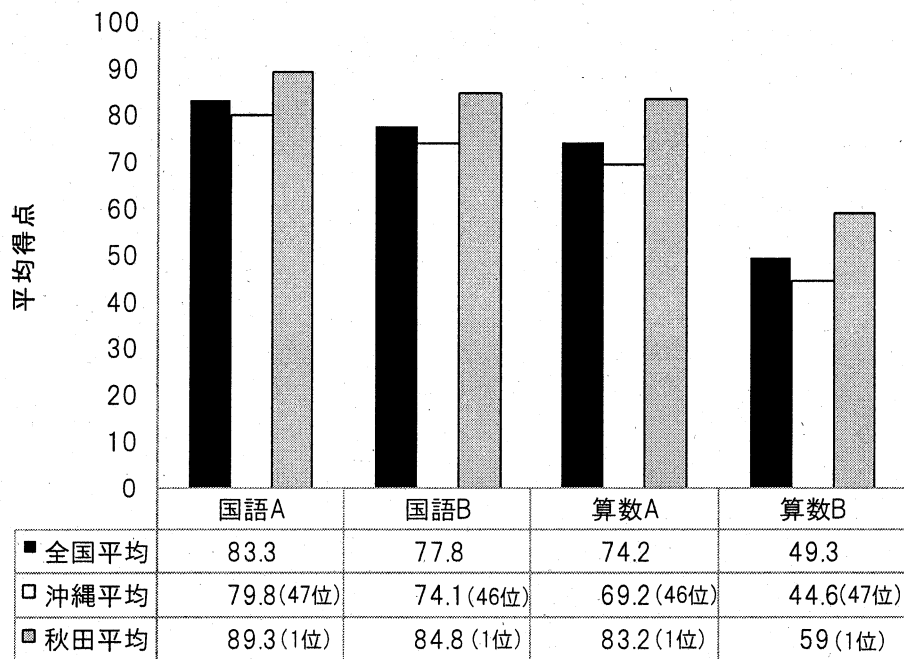
これら 3 つのグラフから読みとれる沖縄県の学力問題の特徴を述べた上で、沖縄の学力を向上させるための取り組みとして、どのような取り組みが必要であると考えられるか、1,000 字以上 1,200 字以内で述べなさい。

問 2 グラフ 4.は、2010 年の「全国学力・学習状況調査」から得られた小学 6 年生の親子のコミュニケーションに関する結果を示している。問 1 で述べたことを踏まえて、グラフ 4.から読みとれる、保護者とのコミュニケーションと学力の関連について述べた上で、なぜ、そのような関連が生じると考えられるか考察し、800 字以上 1,000 字以内で述べなさい。

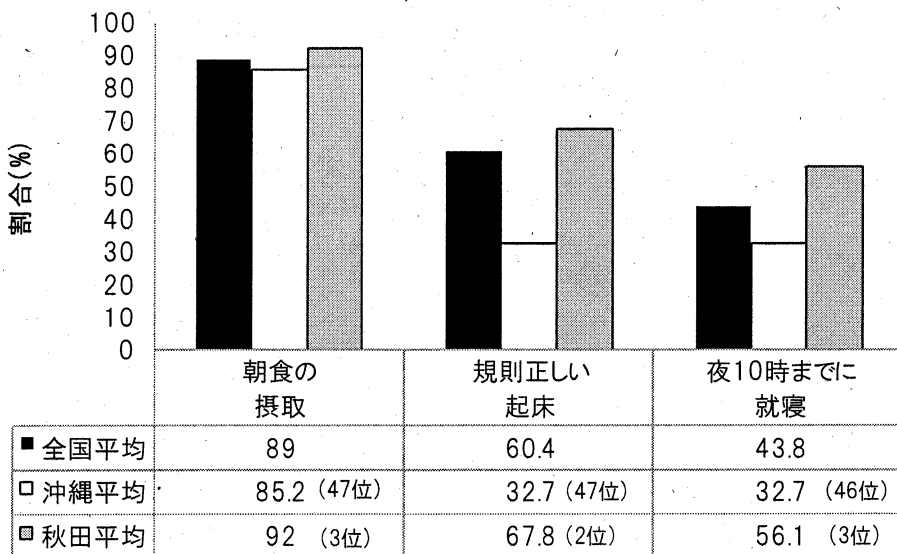
※出典

グラフ 1.,2.,4. : 文部科学省「全国学力・学習状況調査」

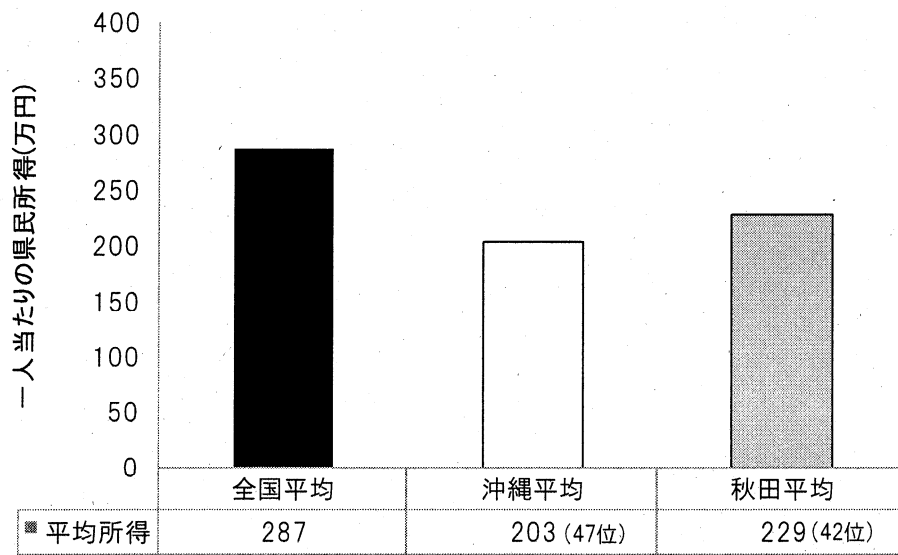
グラフ 3. : 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部地域・特定勘定課「県民経済計算年報」



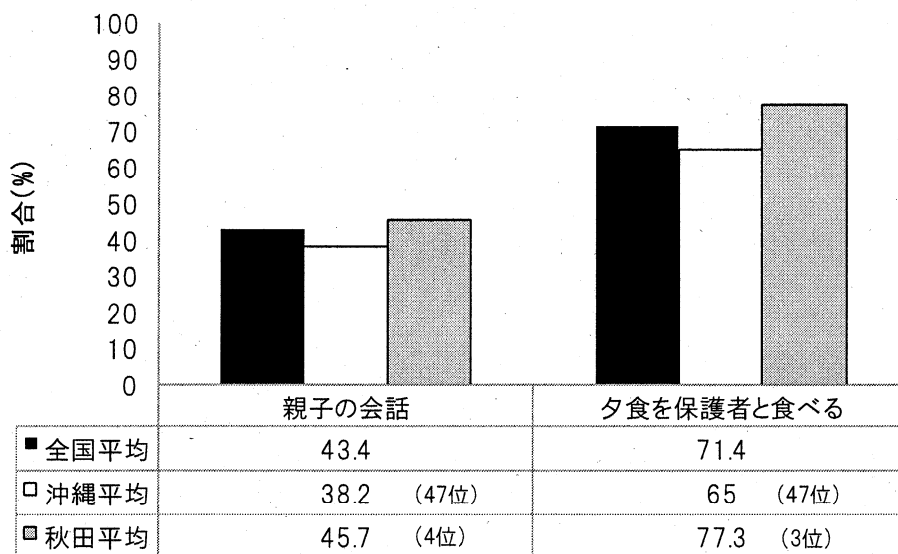
グラフ1. 学カテストの得点比較 (小学6年生)



グラフ2. 生活習慣に関する比較 (小学6年生: している%)



グラフ3. 一人当たりの県民所得の比較



グラフ4. 親子のコミュニケーションに関する比較 (小学6年生: している%)

平成27年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

出題の意図

文部科学省が実施している全国学力・学習状況調査において、都道府県別では平均正答率で毎年最下位クラスだった沖縄が、2014年においては、小学校で大幅に改善する等の変化の兆しが見られたことが話題となっている。学力問題は単に個々人の資質だけに依存するのではなく、地域や生活環境等といった心理社会的要因が複雑に関連している。そのため、沖縄の学力問題の特徴やその背景要因を踏まえて、その解決策について考えることは、本コースのアドミッションポリシーである「心理臨床という営みについて科学的にアプローチし、心の癒やしに関わる多様な専門的技術を身につけるために意欲を持った人材」を評価するために適切な問題であると判断し、出題する。

本コースでは、グラフなどの客観的なデータに基づいて、問題の本質を見極め、有効な解決策を導き出せるような能力を重視している。今回の問題では、問1では、学力テストの結果やそれらに関連する要因(生活習慣や経済状況)等を踏まえて、沖縄県の学力問題の特徴とその背景要因、解決策を問うことで、客観的な洞察力と論理性を評価する。また、問2では、学力問題の背景要因の1つである家族とのコミュニケーションに焦点をあて、データを踏まえた上で、推察力と独創的な思考力を評価する。